

かかわり合いの豊かな子どもをめざして



平成 2 年 2 月

鹿児島大学教育学部附属養護学校

は　じ　め　に

学校長　木佐貫　哲

年号も平成と変わり、新時代のもと本校も今年で開校以来10年、現在地へ移転して8年の歳月を過ごしてまいりました。この間、校内の事情も施設や設備、教官組織の充実などいろいろの発展がみられました。また、このような発展の中における本校の児童生徒の実態も、昭和54年施行された障害児教育の義務制への浸透の高まりと同時に、開校当時、中度の障害を主体とした教育の方針から年々重度化、多様化の方向をたどり、これらの傾向に対応して本校の教育における研究の分野も拡大され、日々多くの課題を提示しております。このことは今まで本校が研究し、すでに発表してまいりました「発達に即応した教育課程の編成」、「生き生きと動く子どもを育てる教育課程の編成」への研究内容の焦点化をはじめとして、本日発表いたします昭和61年度設定の継続研究である「かかわり合いの豊かな子どもをめざして」の研究内容などを通して、現代の障害児教育の抱えた教育研究の厳しさを、つぶさに痛感いたしております。

本日発表します研究の内容は、前回、中間発表いたしました昭和61年設定の研究課題の4か年の後半についての継続研究で、前半2か年の分も含めて最終的にまとめたものです。すなわち、前半においては本校の児童生徒の行動面を、「意図性」「調整度」「協約性」の三つの視点より三指標、さらに「身体」「認知」「情緒」の三つの視点に基づく三基盤と、系統的に思考し、文献研究などを中心とした論理性に基づく本質論的思考を進めてまいりました。さらに後半は児童生徒の学校生活における実際面における行動を通しての実態調査を中心とした現実論的思考に立ち、2か年間の指導法研究をすすめ、4か年の研究課題である「かかわり合いの豊かな子どもをめざして」の研究の成果を一応まとめたものです。今、本研究を一応まとめ、発表するにあたり、その過程を回顧するとき、今回のこの研究は、障害児教育としての学問領域としても非常に困難性を強いられる内容のものであり、しかも4か年という短期間を通しての研究のため、内容的にも未熟な点多々あることが予想されます。本日の公開研究を通して各先生方の忌憚ない御批判、御叱正をよろしくお願い申し上げます。

なお、この研究を推進するに当たり、常に懇切な御指導を賜りました鹿児島大学、鹿児島県並びに鹿児島市教育委員会、鹿児島県総合教育センターの諸先生方に、深甚の謝意を表する次第です。

平成2年2月2日

総 目 次

はじめに.....	校 長 木佐貫 哲	
第一部 研 究 基 調.....		1
資 料.....		19
第二部 学 部 研 究		
小 学 部.....		42
中 学 部.....		91
高 等 部.....		150
まとめにかえて.....		205
おわりに.....	副校長 原 田 新 也	